

(公財) 岐阜県国際交流センター「日本語教室連絡会議 (第2回)」
令和4年3月1日(火) 10:00~12:00

令和3年度

地域日本語教育 アドバイザー派遣事業

<事業概要・報告>

(公財) 岐阜県国際交流センター

地域日本語教室アドバイザー派遣とは？

現状・課題

- ・岐阜県内には41の日本語教室があり、
各教室の実情に応じて教室運営や教え方等に関する課題がある。
- ・教室からは「解決に向けてどうしたらよいか分からない…」という声がある。



取組み

- ・**地域日本語教育アドバイザーを各日本語教室に派遣**
⇒各々に応じた解決策を提案し支援を行い、課題解決を導くことで
日本語教室の活性化を図り、外国人の日本語学習環境の充実に
つなげる。
各教室の課題とその要因を「見える化」⇒「改善策」を講じる

事業概要（令和3年度）

対象 岐阜県内の地域日本語教室または立ち上げを検討している教室
（支援対象の年齢は問わない）

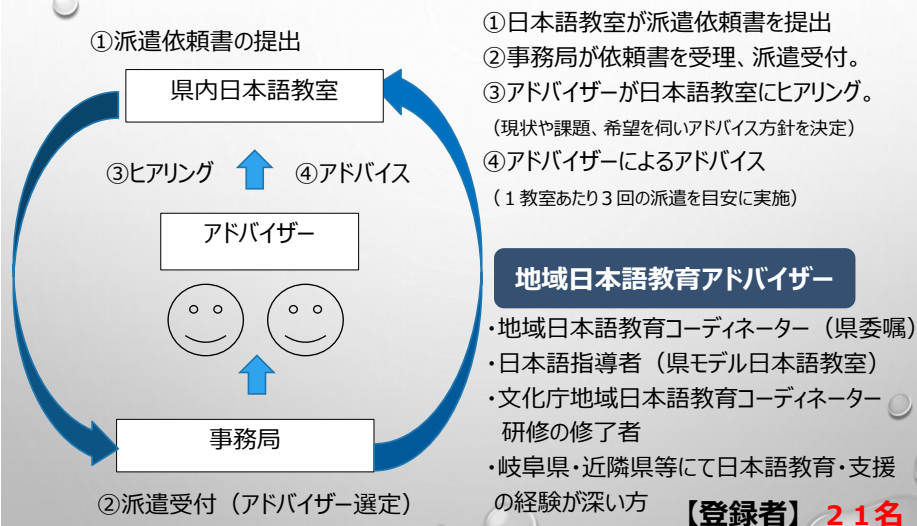
期間 応募：令和3年10月4日～令和4年1月14日
派遣：令和3年10月11日～令和4年1月31日

内容 岐阜県内の地域日本語教室が抱える悩みや課題に
アドバイザーが寄り添い、教室関係者とともに改善方法を検討し、
アドバイスを実施（6団体×3回派遣（6時間）を目安）

（活動面）指導方法、教材選定、シラバス作成等
（運営面）人材確保、ニーズ把握、役割分担、
教室内での課題共有、広報等

新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、オンラインによるアドバイスも対応

アドバイザー派遣の流れ（令和3年度）



アドバイザー派遣実績（令和3年度）

【派遣先】 **2** 団体【アドバイザー】 **5** 名【派遣回数】 **4** 回

派遣先	派遣数	内容
教室 1	2 回 3 回の予定 だったが 1 回 中止	教室運営（活動形式、ボランティアの協力体制と連携）、 学習者の募集・定着 ⇒現在の教室立て直しを図り、仕組み作りをするための解 決法の助言
教室 2	2 回 3 回の予定 だったが 1 回 中止	生活で使う漢字や発音指導、文化体験活動の進め方、 新規ボランティア・学習者の継続、レベル差のある学習者 への対応 ⇒具体的なアドバイス例を元に助言

相談内容の例（令和3年度）

【運営面】

➤ 学習者の募集・定着

- ・ホームページ検索で見つかりやすいように、更新頻度を高め、可能であれば多言語化する。
- ・市役所の外国人相談窓口で紹介してもらえるようチラシを設置する。
- ・オンラインで学習者と話す活動に取り組む。ラインのグループ通話で少人数で話すだけでもよい。教室に来なくても参加できつながりが維持できる。

➤ 活動形式、新旧ボランティアの関わり方

- ・教室の目的や方向性をボランティアに説明し、協力を求める機会が必要。
- ・ボランティアには何かしらの役割を担ってもらい運営に参加してもらう。
(備品を出す係、図書の管理、受付担当等)

相談内容の例（令和3年度）

【運営面】

- **ボランティアの継続した参加が難しい**
 - ・教室のシステムを工夫し、段階付けを行うことで継続した参加を促す。
 - ・新しいボランティアは基本的に会話の活動に入ってもらう。慣れるための見学も導入して見ては。
 - ・新しいボランティアが安心して参加できるよう、団体の方向性と活動の良いところ、大変なところも伝える。

【活動面】

- **漢字学習に後ろ向きな学習者が多いがどうすれば？**
 - ・身近な物や生活の中で触れているものを教材にすると興味を持ってもらいやすいし、レベル差があっても共同学習が可能。
 - （スーパーで見つけた漢字、申込書や宅配便等で使う名前や住所等）

相談内容の例（令和3年度）

【活動面】

- **学習者の発音が改善されなく困っている**
 - ・日本語母語話者の発音に近づけなければならないということではない。
 - ・発音を希望した学習者に対応するスタンスで取り組むとよい。
 - ・指導するなら日本語の音とリズムを正しく認識できるよう練習するとよい。
- **学習者の自立学習のための教材を紹介してほしい**
 - （読み物、生活に関わる語彙・文法等）
 - ・生活場面の会話が学べるインターネットサイト（文化庁つながる ひろがる にほんごでのくらし）等の紹介

依頼先からの主な意見（令和3年度）

【よかった点】

- 現状の認識はしていたが、問題が漠然としていた。アドバイザーの方と話をすることで、解決すべき課題を整理することができた。
- こちらが解決したい事について、具体的にアドバイスをいただいた。今後の教室運営等の参考とし取り入れたい。
- ヒアリングで各自の悩みや思いを聞いたうえで内容を考えていただいた。
- アドバイザーの方とお話する中で、私たちの教室ではソフト面・ハード面ともに整備することが多々あると感じた。
- 文化体験活動では、多くの例を教えていただいた。また活動にあたってのヒントをもらえた。
- 生活場面で使う漢字の教え方や発音指導についての考え方が分かった。

【改善点】

- コロナ禍のため、最後までアドアイスを聞けなかったのが残念だった。
- 普段の姿勢や自学についての資料をいただいたのはありがたかったが、説明が聞きたかった。

アドバイザー派遣の様子（令和3年度）

